

1996年10月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度ではベーリング海から東シベリア、ラブラドル半島、ウラル地方に正偏差、北アメリカ大陸西部、アイスランド、バイカル湖周辺に負偏差が見られたが、いずれも顕著なものではなかった。また、極渦は平年に比べやや弱かった。850 hPa 赤道上空の風は140°E~130°Wの太平洋上で顕著な東風偏差が卓越した。インド洋上では西風偏差となった。

世界の異常天候

① 東シベリアの高温

東シベリアでは月平均気温が平年より1.5°C以上高く、中部のオイミヤコンで-10.5°C (+5.5°C) となった。

② ヨーロッパ北西部の多雨

ヨーロッパ北西部を中心に多雨となり、アイスランド南東部のヘブンで月降水量 292 mm (平年比178%) となった。イタリアでは上旬にローマで、中旬には北部で大雨が報じられた。

③ アラスカからカナダ西部の低温

④ アメリカ合衆国の多雨

前月に引き続き、カリブ海周辺で高温、それ以北は低温傾向となり、特にアラスカからカナダ西部にかけて月平均気温が平年より2°C以上低く、アラスカのアンカレジで-3.7°C (-5.1°C) となった。アメリカ合衆国では南部を除いて多雨傾向となり、ボストンで月降水量 244 mm (292%) となった。上旬にメキシコ湾、中旬にカリブ海の周辺でそれぞれハリケーンによる大雨、またアメリカ合衆国東部のニューイングランドでは上旬に降雪、中旬や下旬に大雨が報じられた。

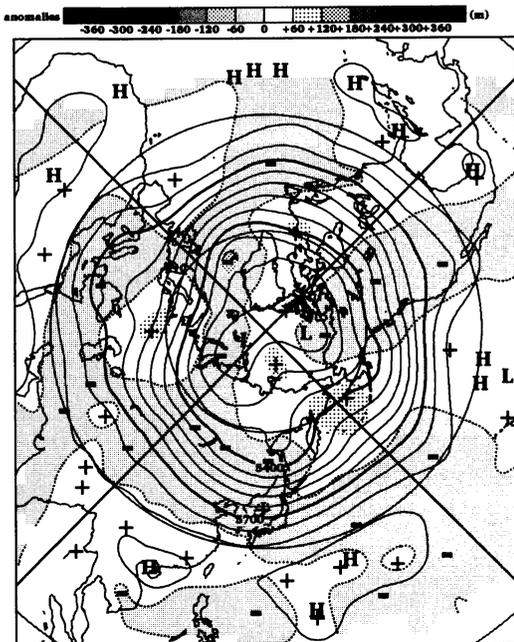
⑤ 南アメリカ北部の高温

前月に引き続き、北部や南東部で高温となり、アルゼンチン中部のピグエで月平均気温16.2°C (+2.9°C) となった。

⑥ オセアニア中部の多雨

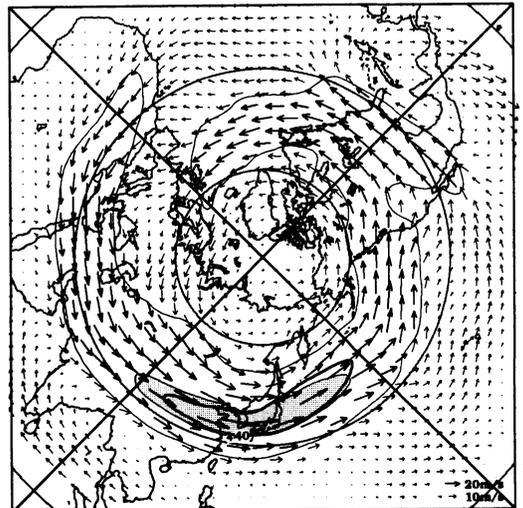
前月に引き続き、ハワイやオセアニアの大半の島嶼国で高温傾向となり、そのうち赤道以北で少雨傾向、赤道以南で多雨傾向となった。

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 神野正樹)



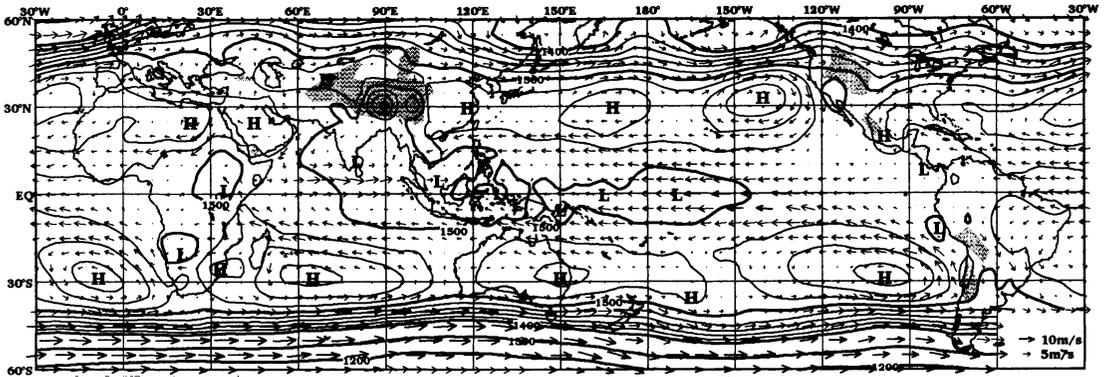
1996年10月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔, 偏差パターン間隔は 60 m. 平年値は 1961~1990年のデータに基づくもの。

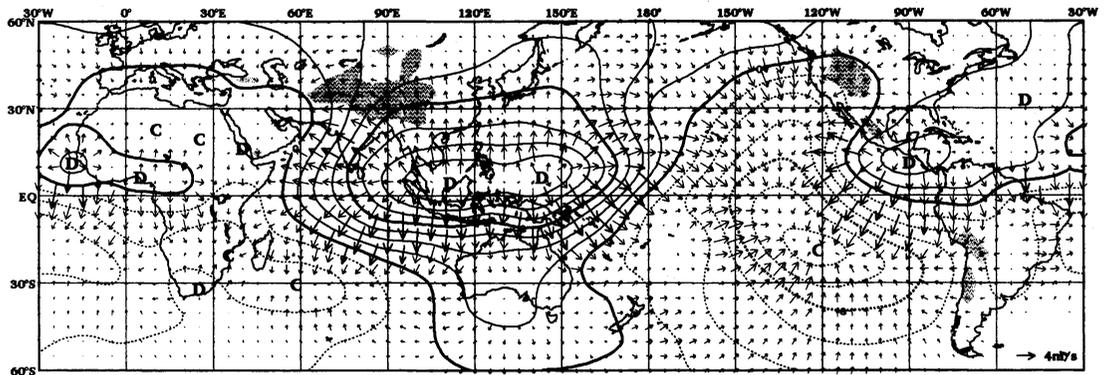


1996年10月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル

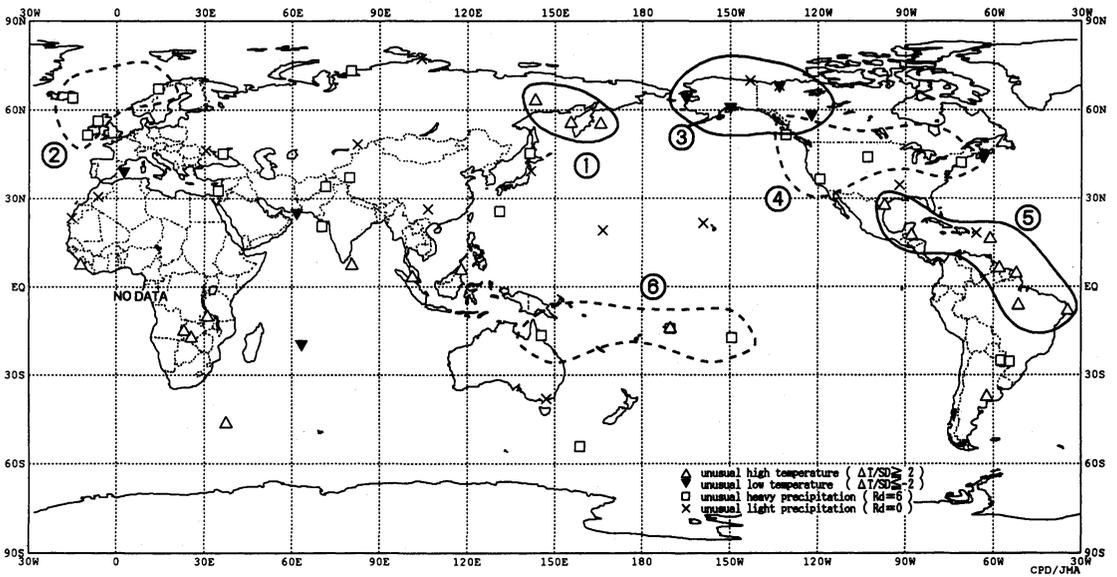
等値線間隔は 20 m/s. 陰影部は平年で 40 m/s 以上. 平年値は1979~1990年のデータに基づくもの。



1996年10月の月平均 850 hPa 高度および風ベクトル 等値線間隔は 20 m (1400 m までは 100 m)



1996年10月の月平均 200 hPa 速度ポテンシャルおよび発散風ベクトル 等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$



1996年10月の世界の異常天候分布図 △ 異常高温 ▼ 異常低温 □ 異常多雨 × 異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の2倍以上, 異常多雨・少雨は降水5分位値が6または0. 図中の番号は本文中の番号と対応している.

1996年夏季モンスーン期の降水の特徴

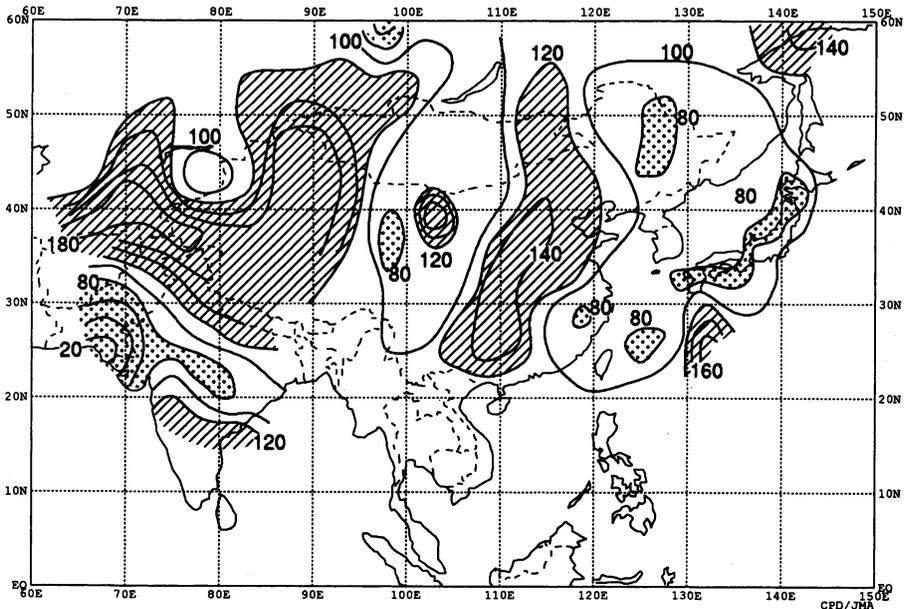
今夏のインドモンスーンは、6月から9月にかけてほぼ平年並みに推移した。降水の様子を地域別に見てみると、パキスタン北東部からインド北西部、インド南東部からスリランカ南東部では平年より多く、パキスタン中部や南部、インド中部の一部では平年より少なかった。6月はサイクロンのため、6月の月降水量がもともと少ないインド南東部やスリランカが異常多雨となった。一方、インド中部は平年より少なかった。7月はインド南東部やパキスタンで平年より少なかった。8月はパキスタン南部で異常少雨となり、パキスタン北東部からインド北西部にかけて平年より多かった。9月はパキスタン北東部やインド北部で大雨が降った。この雨季の洪水は例年より規模が大きく、長期間に及んだ。インドでは東部や北西部を中心に洪水が発生、死者500人以上、耕地被害300万 ha、被災者3200万人と報じられた。ネパールでは洪水・土砂崩れにより200人以上が死亡、バングラデシュでも洪水による被災者が100万人を超えると伝えられた。パキスタン北東部のパンジャブ地方では8月下旬からの大雨で洪水が発生、死者100人以上、被災者130万人と報じられた。

東アジアではモンスーンの活動域が6月後半から7月半ばにゆっくり北上した。その間にシベリアからの寒気がしばしば長江付近まで南下し、前線が長江付近

に停滞し6月下旬を中心に大雨が降った。亜熱帯高気圧は平年より東に偏っていたが、7月下旬には西へ張り出し、前線が北上して、北朝鮮などに大雨をもたらした。降水の様子を地域別に見てみると、中国東部や西部では一部を除いて平年より多く、中国東北部や朝鮮半島、日本では平年より少なかった。中国南部では6月下旬の大雨のため長江流域で洪水が発生、死者1500人以上と伝えられた。その後も、中国南部は台風などの被害を受け、8月下旬になって長江の水位の低下が伝えられた。少雨が続いていた中国北部も8月に入って大雨が降り、黄河流域で洪水が発生したが、被害は軽微であると伝えられた。7月下旬に朝鮮半島北部で大雨が降り洪水が発生した。北朝鮮では2年連続の洪水となり、死者100人以下と伝えられた。

6月から9月までに発生した台風の数17個(平年16.8個)であった。ベトナムでは北部や中部を中心に、8・9月の2か月間の台風で死者456人となり、近年にない被害がでたと報じられた日本、中国、台湾、フィリピン、タイ、カンボジアでも台風による被害が伝えられた。インドでは6月に2つのサイクロンが上陸、100人以上の死者がでたと報じられた。

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 徳広貴之)



1996年夏季モンスーン期の降水量平年比分布図